

モニタリング調査結果

種名： レンブクソウ

調査者： NPO法人境川の斜面緑地を守る会

調査地： 上鶴間

調査期間	気づいたこと
2018年1月 ～2018年4月	調査対象エリアでの開花数は35。例年同様にサワラの下の半日陰の場所で開花数が多い。しかし今年は明るい場所に突然に小さな群生が現れ、数枚の葉で2～3個の花を効率的に咲かせた。陽地に現れたこの群生が来年以降どうなるかを観察したい。
2019年1月 ～2019年4月	調査対象エリアでの開花数は64個で、昨年より2倍近い。特に草刈機でササ刈りをした旧河道沿いでの開花数が非常に多かった。昨年突然明るい場所に現れ効率的に花を咲かせた小さな群生は、花だけでなく葉も確認できず姿を消した。
2020年1月 ～2020年4月	調査対象エリアでの開花数は118個で、昨年より約2倍。特に昨年急増した旧河道沿いでは狭いエリアに密集して爆発的な開花数を記録したが、開花の集中する場所が昨年より少し移動している。また一昨年秋にサワラが倒れて明るくなった場所では開花数が激減した。一昨年明るい場所に飛び出して効率的に開花したもう一つの群生も、花も葉も確認できず姿を消した。
2021年1月 ～2021年4月	調査対象エリアでの開花数は165個で、昨年よりさらに増えた。このうちの大半が旧河道沿いで、2年連続して爆発的な開花が見られた。またサワラが倒れて明るくなった場所では全く開花せず、その奥で長らく葉だけの状態が続いていた場所で初めて開花をみた。
2022年1月 ～2022年4月	開花数は60に（昨年は165）激減。昨年一昨年と開花数が多かった旧河道沿いで急減。特に昨年集中的に開花した場所では葉までもが完全に姿を消した。2年間爆発的な開花をみた旧河道沿いでは22個と通常の開花数に戻った。イチリンソウA向かいのアブラチャン脇で18個の開花があった
2023年1月 ～2023年4月	旧河道沿いの開花数は51(昨年は22)でやや増加。今年は旧河道沿い生育地だけ、開花時期までに陽が当たるように伸びて来たヤエムグラを抜き取った。この方法で様子見。
2024年1月 ～2024年4月	旧河道沿いの開花数は6で大きく減少した(22→51→6)。個体密度は下がっていない。他の生育地の開花数も極めて低い。昨年から実施している成育時期に生えて来るヤエムグラの抜き取りは継続し様子を見る
2025年1月 ～2025年4月	旧河道沿いの開花数は3で大きく減少した(22→51→6→3)。個体密度は下がっていない。他の生育地の開花数も極めて低い。ヒメニラの調査区の近傍で開花数8を確認。レンブクソウは広い範囲に薄く分布、場所によって開花株の増減が生じている可能性がある。広い範囲で見えていく必要がある。